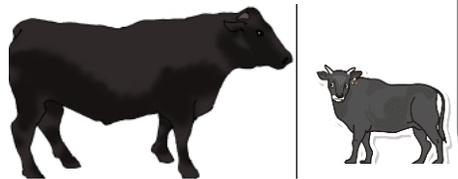
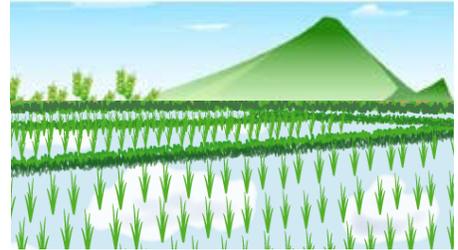


# 氷見市耕畜連携農業推進協議会

水田放牧を推進し、繁殖牛の増頭による優良素牛生産の拡大と飼料費の低減により畜産収益力向上を実現するとともに、水田の耕作放棄地化を防止



**県**

- ・広域普及指導センター
- ・農林振興センター
- ・家畜保健衛生所

指導・助言

## 実証内容

- 水田等の生産基盤の維持が困難な地区において放牧を実施し、飼養管理のコスト低減効果、水田の耕作放棄地防止効果について実証この結果を踏まえ、放牧マニュアルを作成し、市内に水田の放牧利用を普及拡大
- 地域転作対応(省力管理・獣害対策)

## 効果

- ①生産量の増大  
繁殖牛の増頭による地域内素牛生産頭数の増加
- ②飼料コストの低減  
放牧による飼料費のコスト低減
- ③耕種農家の効果  
耕作放棄地になる恐れのあった水田の生産基盤の維持

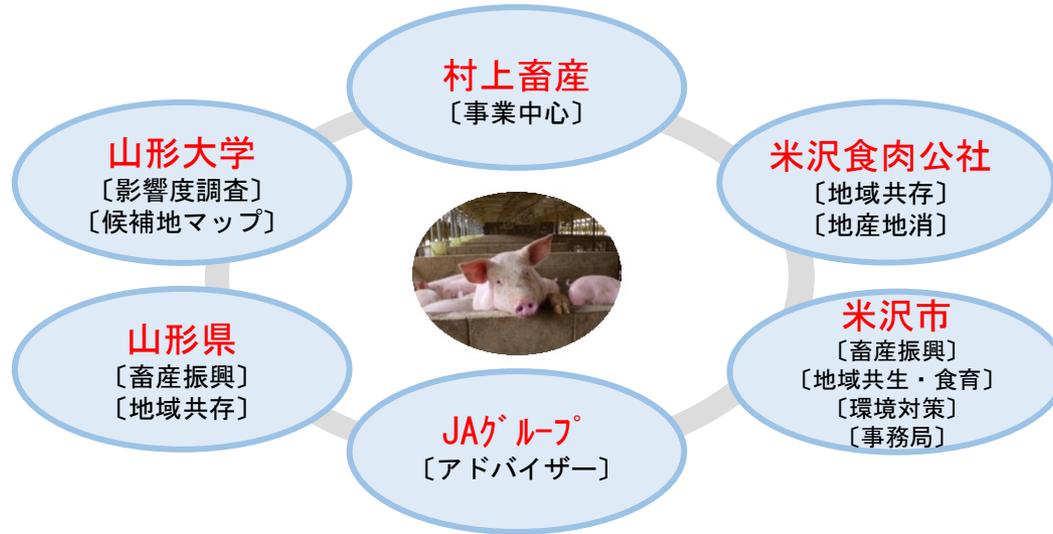
**地域全体で21百万円の収益増**

- ①素牛生産頭数の増加1,680万円  
(50頭×12/14(分娩間隔))×40万円/頭
- ②飼料コストの低減432万円  
粗飼料購入費8kg/頭×60円/kg×6ヶ月×50頭

# 養豚振興と地域共存を目指す畜産クラスター事例③ 山形県

## 米沢地域共存型養豚協議会

養豚場の悪臭苦情の発生メカニズムを解明し、地域共存の観点からその解決方法を策定する。



### (実証内容)

- ・養豚場の悪臭苦情の発生メカニズムを解明し、その影響度の評価方法を確立する。
- ・確立した評価方法を使い米沢市内の養豚適地を探索し、マップ化する。
- ・地域共存と地産池消を進めるための養豚事業モデルを策定する。



### (効果)

- ・養豚場の臭気影響度の評価方法が確立でき、悪臭苦情のない新設農場候補地の選定が容易になる。既存農場の臭気対策の目標も設定できるようになる。
- ・地域共存型養豚場モデルを策定することで、地域での理解を深めることができ、ブランド価値が向上する。地産池消が進む。

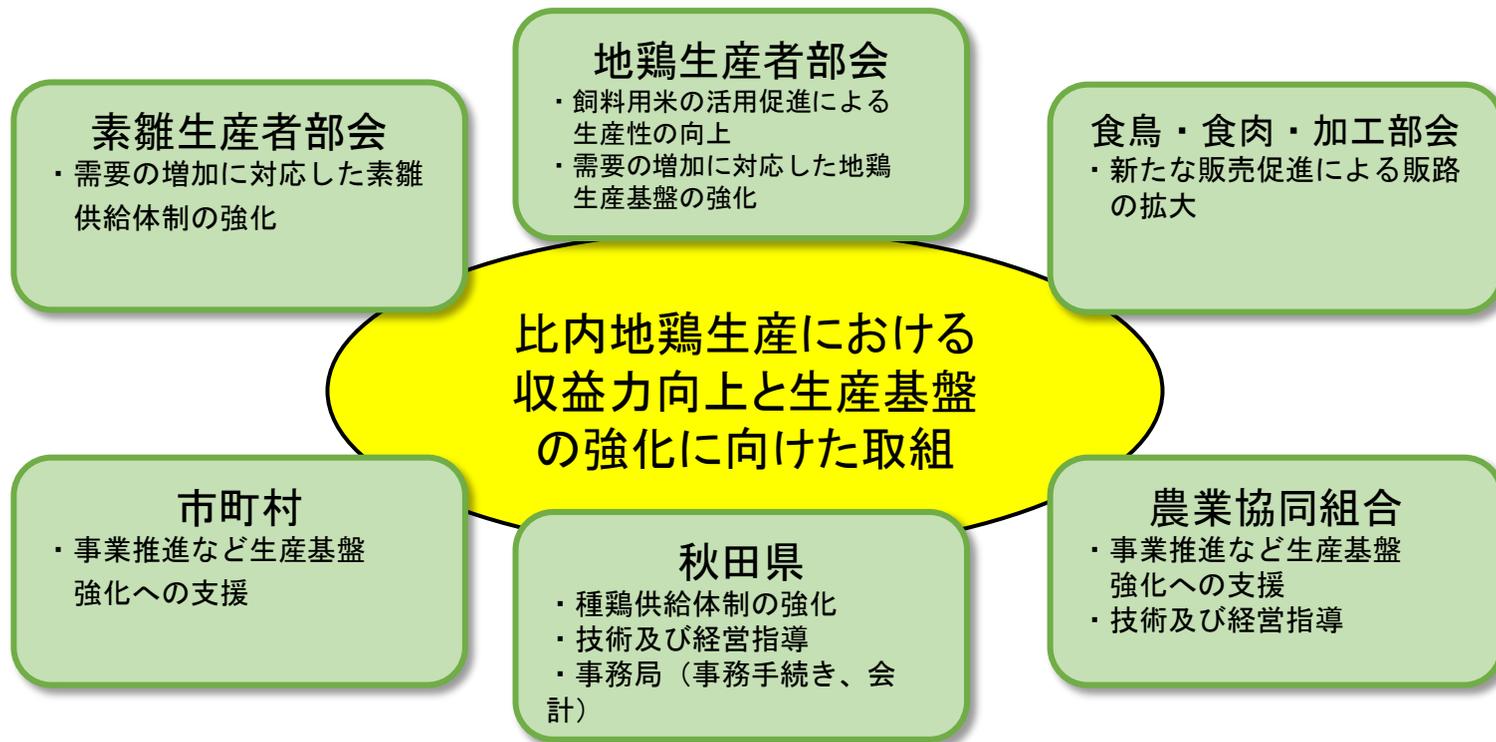
### 《3年後目標》

- ・養豚場新設、出荷頭数増  
7,200頭/年→15,000頭/年
- ・地産池消向け出荷頭数増  
1,700頭/年→7,500頭/年
- ・マップを活用し、米沢牛肥育農場などの新畜産施設を計画立案

# 産地全体が一体となって収益性向上に取り組む畜産クラスター事例④ 秋田県

## 秋田県比内地鶏ブランド認証推進協議会

秋田県を代表する特産品である比内地鶏について、飼料用米の活用促進や新たな販売促進の取組を実証し、生産性向上や販路拡大などの収益力の向上を図る。  
また、これらの取組等により拡大する需要に対応した生産基盤を構築する。



### （実証内容）

- ①飼料用米の活用促進による生産性の向上  
比内地鶏の飼料用米多給飼育技術の実証
- ②新たな販売促進による販路の拡大  
外国人観光客をターゲットとした新たな販売促進の実証

### （取組の効果）

- ①飼料用米の活用促進による生産性の向上  
比内地鶏の飼料用米多給飼育技術の実証・普及により、飼料費の低減による低コスト化が図られる。
- ②新たな販売促進による販路の拡大  
外国人観光客をターゲットとした新たな販売促進の展開により、販路の拡大や国内景気に左右されにくい需要の創出が図られる。

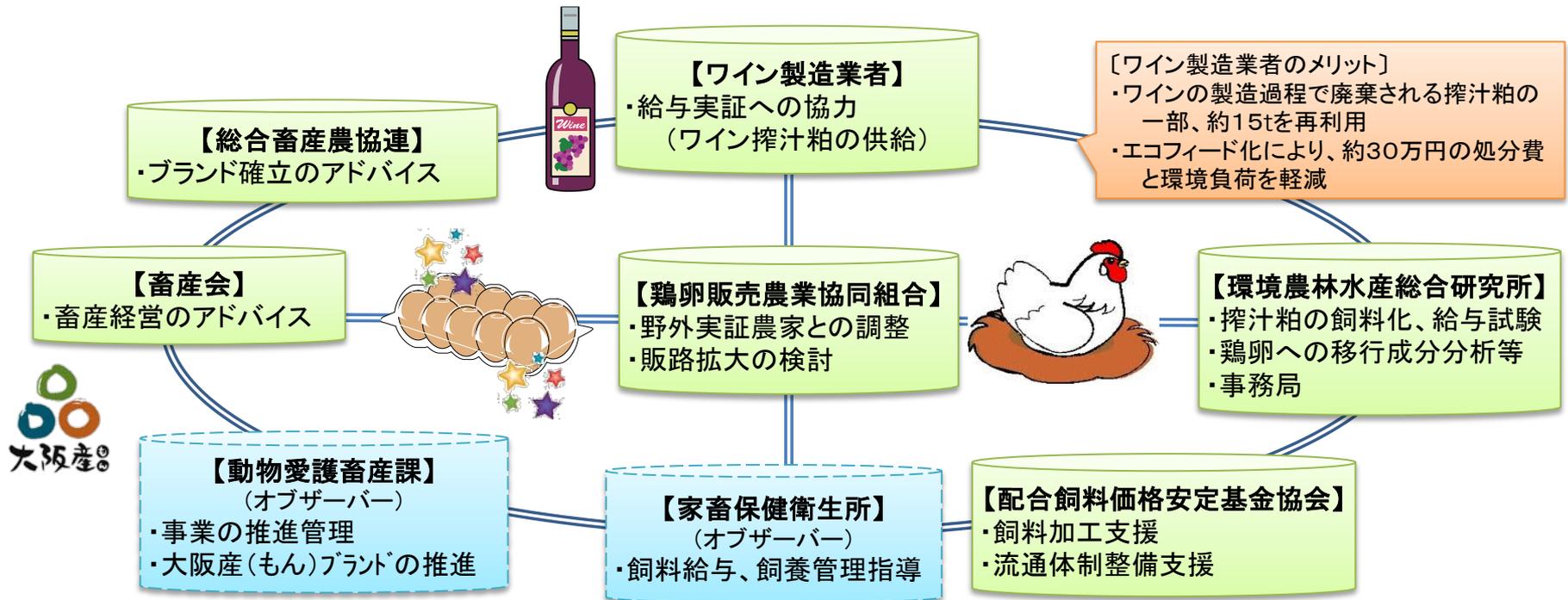
### 【地域全体の収益性向上】

飼料費の5%低減  
(1羽当たり約51円)  
51円/羽 × 587千羽  
= 30百万円の収益増

# 府内の畜産関係者が連携した畜産クラスター事例⑥ 大阪府

## 『大阪府未利用資源活用養鶏協議会』

府内ワイン製造業者の協力を得て、ワイン搾汁粕をエコフィード化し、新たなブランドたまごを創出。付加価値向上と販路拡大を図るとともに、産業廃棄物を減少させ、環境負荷の軽減を実現



### (実証内容)

- △ ワイン搾汁粕の飼料化、給与試験を行い、産出された鶏卵の成分分析、販路の検討により付加価値の効果を実証
- △ この結果を踏まえ、府内養鶏家へワイン搾汁粕の利用を普及

### (府内養鶏への効果)

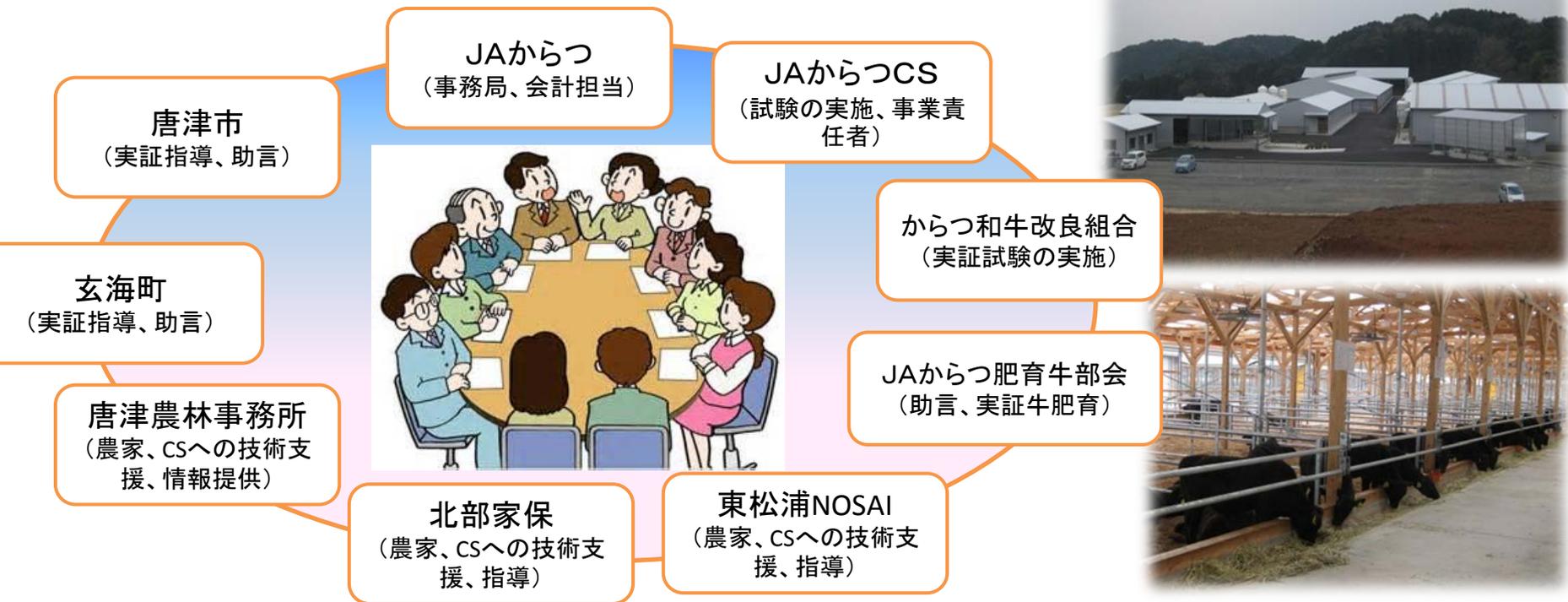
- △ 地域ブランド創出による付加価値の向上
- △ 「ワインたまご」としての販売による収益性向上とワインとの共販による地域収益性の向上
- △ 未利用資源の活用による環境負荷軽減とCSR

### (地域の収益性向上)

- △ 1,110万円の収益増(試算)
- ブランドたまご供給量54t×付加価値+200円/kg = 1,080万円
- ワイン製造業者のメリット: 30万円

## JAからつキャトルステーション利用検討委員会

新たな衛生対策を導入し事故率を低減することにより、肥育農家が求める優良な肥育素牛を生産し、施設利用農家の収益性向上を実現



### 【実証内容】

子牛の発育不良や事故を防止するため、CSでモデル的に新たなワクチンプログラムを実証する

この結果を踏まえ、地域の子牛の発育・品質の向上や事故率の低減を図る

### 【効果】

- ①子牛の市場販売価格の向上  
市場比96%→103%(7ポイント向上)
- ②子牛の事故率の低減  
2.3%→1.5%  
(0.8ポイント低減)

農家の収益性が  
34,354千円アップ  
(593,149円/頭×7%×840頭×98.5%)